

うない通信 for 先端型

Vol.7

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室 ニュースレター

2025年1月発行

第24回琉大未来共創フォーラム×文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」総括シンポジウム

令和6年12月7日(土)、第24回琉大未来共創フォーラム×文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)総括シンポジウムを開催いたしました。第一部では、基調講演として東京大学の矢口祐人副学長・教授を講師にお迎えし、「多様性を大切にする大学と社会を目指して」というタイトルでご講演をいただきました。講演では、2024年2月に矢口副学長が御出版された『なぜ東大は男だらけなのか』(集英社新書)を元に、大学はこれまで男性優位の長い歴史を有してきたことと同時に、その歴史は大学のキャンパスが女性の居場所を作ってこなかった歴史でもあること、そしてその歴史が今日まで影響を与えているということ、東京大学の事例を元に解説いただきました。矢口副学長は、「女性・男性比率の歪みはなぜ解決すべきなのか」という課題に対し、教育機会の不平等、差別とハラスメントの根絶という正義の問題であると同時に、歪みの是正は国際的に求められていることであり、多様な属性と意見が交わり、誰も置き去りにされないよりよい社会を築くために必要なアクションであることを強調されました。そして、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)を推進するにあたり、社会におけるジェンダー平等の理解を深めることが今日のリーダーシップに求められており、男性もアクションを起こすべきであるという、マジョリティがマイノリティのアライ(協力者)となるために必要な知見をご共有いただきました。

アンケートには、「ジェンダーに関わる学問は女性



講師：矢口祐人 副学長・教授

が主だったイメージがあったが、男性が主体となってギャップを解消しようと実際に表に立ち、お話される姿がとても印象的であった」「大変わかりやすく、参考になった」等々、多くの感想が寄せられました。

第二部では、本学における令和元年度から現在に至るまでの女性研究者活躍支援事業の成果について、小西照子ジェンダー協働推進室長、並びに事業を活用した人文社会学部の高橋そよ准教授、理学部の田中厚子准教授による報告がありました。その後講評を行った国立科学技術振興機構(JST)の山村康子プログラム主管より、これからも女性研究者支援の取組を更に力強く進めてほしい、という激励の言葉を頂きました。

開催にあたり、多大なるご協力を頂きました矢口祐人副学長・教授、山村康子プログラム主管、そして学内外の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



講評する JST 山村康子プログラム主管



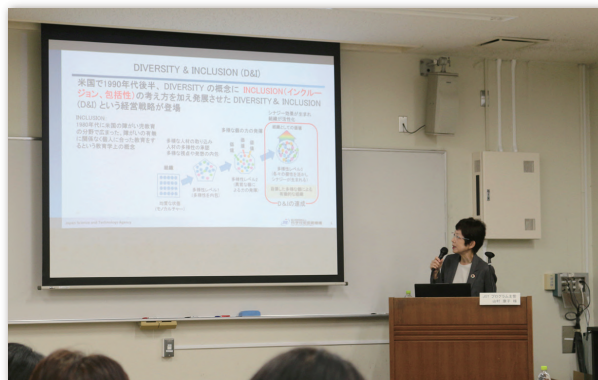
講演中の様子

ダイバーシティ推進トップセミナー 「座談会 ー大学執行部におけるジェンダー協働を考えるー」を開催しました

令和6年12月7日(土)、国立科学技術振興機構の山村康子プログラム主管と東京大学の矢口祐人副学長・教授を講師にお迎えし、本学執行部向けのダイバーシティ推進トップセミナー「座談会ー大学執行部におけるジェンダー協働を考えるー」を開催しました。

座談会では、まず山村康子プログラム主管より「経営戦略としての女性人材の登用」と題し、日本における女性研究者支援には、これまで唱えられてきたダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンに加え、「誰もがコミュニティの一員として扱われ、組織の一員である、成長できると感じられるビロンギング (Belonging, 帰属意識)」という個人の主観的な視点や気持ちに寄り添う取組が求められていることが紹介されました。

その後、東京大学の矢口祐人副学長・教授を囲み、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンをさらに推進し、「ビロンギング」を付け加えるにはどのような取組が有効なのかについて、活発な意見交換が行われました。



第19回琉大未来共創フォーラム × ダイバーシティ推進セミナーを開催しました

令和6年5月27日(月)、上智大学外国語学部英語学科 出口真紀子教授を講師にお迎えし、「マジョリティ側からダイバーシティを考えるー見えづらい「特権」とは?」と題し、第19回琉大未来共創フォーラム × ダイバーシティ推進セミナーを開催致しました。マジョリティ性の高い集団に属する人たちは、「労無くして得られる優位性 (=特権)」から知らずのうちに恩恵を受けていながらも、自らの特権に気づきにくいということ、及び特権に無自覚でいることは差別にも繋がるということをわかりやすく解説頂きました。また、ジェンダー協働及びダイバーシティ推進のためには、マイノリティ側に協力する「アライ」(協力者)の活動も重要であることもご教示いただき、ジェンダー協働及びダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンをさらに推進するために必要な知見をご共有頂きました。

アンケートには、「自身のマイノリティ性に対して不満を持つことはあったが、マジョリティ性に対してはあまり意識が及んでいなかったことがわかった」「自分はどのような特権を持っているのかを考えることができた」等々、多くの気づきが寄せられました。

開催にあたり、多大なるご協力を頂きました出口真紀子教授、上智大学ダイバーシティ推進室関係者の皆様、そして学内外の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



講師：出口真紀子 教授

ダイバーシティ推進トップセミナー × 幹部セミナーを開催しました

令和6年5月28日(火)、前日のフォーラムにもご登壇頂いた上智大学外国語学部英語学科 出口真紀子教授を引き続き講師にお迎えし、「マジョリティ側の特権を可視化する～アライへの道すじ～」と題し、本学執行部向けのダイバーシティ推進トップセミナー × 幹部セミナーを開催しました。

出口教授より、執行部に属するという優位性を理解し、マイノリティの格差是正に向けて積極的に協働するアライ(協力者)となり、女性を含む多様な人材を率いるためのリーダーシップを取るために必要な知見をご共有頂きました。

国際学会派遣 + 1 Visit 利用者報告

コンヴィヴィアルな共感性に向けて

人文社会学部琉球アジア文化学科 准教授 高橋 そよ

私は文化人類学・民俗学の視点から、島という環境において、人間が生き続けるために編み出してきた在来知や技法、道具に関心を持ってきました。これまで自然科学者や社会科学者らとの学際的研究に積極的に関わってきましたが、この数年は漁師さんや農家さんなどの生産現場の方やアーティストなど様々な専門家との協働研究に取り組んでいます。これらの成果発信として、令和6年度「国際学会派遣 + 1 Visit」事業に支援頂き、2024年6月、フィンランド・ヘルシンキで開催された Sustainability Research and Innovation Congress に参加し、コンビナーとしてセッション「Toward Convivial empathy of humanity and nature (人間と自然とのコンヴィヴィアルな共感性に向けて)」を企画しました。

哲学者 Ivan Illich の人間の自立共生 (Conviviality) 概念を基に、国内外の人類学者や生態学者、農学者、アーティスト、建築家と共に、人新世における人間と自然の関係性と、それぞれの専門性が果たす「仕事」の役割について再考しました。その後、フランス・社会科学高等研究院 (EHESS) の附属研究所である Centre de Recherche et de Documentation sur l'Océanie (島嶼地域研究所) を訪問し、共に登壇した共同研究者 Dr.



Joulian Frederic らと、特に「もの文化とわざ」に着目し、対話を続けました。私たちの対話には、地中海の漁師さんや庭師さん、陶芸家、フランスの国立海洋公園となった島に住むたった一人の行政官の方など、自然との様々な関わりを持つ人々も参加しました。

この地中海や東アフリカ、オセアニア、琉球弧の具体的な社会実践の対話を通じて、論文という形式に限らない、新しい生活誌(エスノグラフィ)の表現技法 Anthrographic approach の可能性に辿り着きました。今後、このアイデアを具現化するため、国際共同研究の展開を予定しています。

研究活動等支援員制度 利用者の声

制度利用者：岡本 牧子 教授 (学長補佐 / 教育学部)

この度、研究活動支援員の制度を利用することで、デジタル機器の操作やデータ作成方法を初学者向けに効果的にまとめてもらう業務を、実際に機器を操作しながら行うことができました。私自身、育児をしながら大学での夜間業務の実施が難しい状況と、学長補佐業務で講義以外の時間が会議で埋まることが多いため、まとまった時間を確保することが難しく、本制度が提供するサポートは大変助かりました。研究活動支援員がいることで、研究の質を維持しつつ、家庭とのバランスを保つことができ、研究環境の向上に寄与してくれました。この制度に感謝の意を表します。

研究支援員：金城 美唯亜 (教育学部 3年次)

今回の活動を通して、初めてデジタル機器を利用する人が直面する困難や必要とする情報を把握することができました。3Dプリンターやレーザー加工機などといったデジタル機器は今後、教育現場において重要性がかなり高くなると考えます。なので、子どもたちでもデジタル機器を安全かつ効果的に活用することができるように、操作手順を整理することの大切さや教員となった時に応用できる知識を得られたことは、将来の指導に役立つ貴重な経験となりました。

女性教員海外調査派遣制度

将来リーダーとして大学を牽引できるグローバルな視点と管理運営能力を備えた人材の育成を目的に、「女性教員海外調査派遣制度」を実施しました。本制度は、女性教員を対象に一定期間職務を免除し、海外の国際的な研究機関で研究や組織運営に関する調査に専念できる環境を提供するものです。下記1名を採択しました。

【採択者】 中園 有希 准教授 (教職センター)

渡航先：ライブニッツ教育メディア研究所 ゲオルク・エッカート研究所 (ドイツ)



育休取得を通して得た宝物

教育学部 准教授 高瀬 裕人

ありがたいことに2023年末が出産予定日でした。そこに向けて、さまざまな準備を進めました。その一つが、「育休」の取得です。夫婦とも県外出身でもあり、里帰り出産でした。家族で話し合い、私は2回に分けて「育休」を取得することにしました。

1回目は、産後一か月の期間。2回目は、新年度4月から半期という計画です。夫婦で育ちゆく子どもを支えたいとの思いからです。

1回目の育休。出産予定日から逆算し、周りの先生方や事務の方々と、担当の講義、研究、その他の仕事の相談・調整しました。しかも、予定日より早く出産を迎えましたので、ほんとうに多くの方々に助けていただきました。そのおかげで、生まれて一か月間、夫婦と岳父母で、子どもの成育を間近で愛おしむことができました。

2回目の育休。生後3か月の子どもと家族で沖縄に戻った時期です。2回目の「育休」では、「非常勤講師経費戦略的運用」に応募しました。こうした大学からの支援は、とてもありがたいものです。こうした支援もあり、私は、子どもの生活リズムに合わせて、沐浴と、夜のお世話に専念することができました。

復職後は、以前よりも、教育・研究と、家庭や子育てとのバランスを保つことを心がけています。「イクメン」という言葉が浸透したとも言われますが、こうした言葉がなくとも、みんなが子どもの成育を愛おしめる時間を過ごせる社会になっていくことを願っています。

下記のイベントを実施しました

■ 附属図書館企画展「データサイエンス 知って！」

開催日時：令和6年3月28日（木）～5月9日（木）

共催：琉球大学数理・データサイエンス・AI教育推進室、ジェンダー協働推進室

■ 令和6年度リーダー育成海外研修

「場面に則した『正しい英語』とは？－Importance of Learning about and Choosing Appropriate English for Formal Academic and Professional Contexts」

開催日時：令和6年8月10日（土）

主催：琉球大学ジェンダー協働推進室

■（学内限定）琉球大学SDGsワークショップ

開催日時：令和6年9月11日（火）

「ジェンダー協働およびダイバーシティ推進・働き方改革に係る課題可視化のためのアンケート」結果の一部を発表

共催：琉球大学SDGs推進本部、ジェンダー協働推進室

■（学内限定）部課長級向け ダイバーシティ推進セミナー

開催日時：令和6年10月28日（月）

主催：総務部職員課

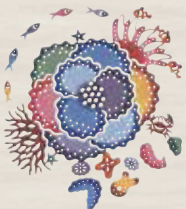
■ 附属図書館企画展「令和6年度 女性に対する暴力をなくす運動関連パネル展」

開催日時：令和6年11月12日（火）～11月25日（月）

主催：公益財団法人おきなわ女性財団

共催：琉球大学附属図書館、ヒューマンライツセンター、ジェンダー協働推進室

支援事業やセミナー等の詳細につきましては、随時ジェンダー協働推進室HPで発信しております。



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室

Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp URL:https://gender.skr.u-ryukyu.ac.jp/

